

様式3 **令和6年度 小金井市立小金井第二小学校 自己評価まとめ**

学校教育目標 人権尊重の精神を基盤として、徳・知・体の調和がとれ、心身共に健康で、主体的に学ぶことができる児童の育成を図るとともに、国際社会に生きる資質・能力を育てる。
 ○心豊かな子ども ○自ら考え行動する子ども ○健康な子ども

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 ○子どもが「今日も登校してよかった」と実感する学校 ○チーム力を生かし主体的に課題を解決していく学校 ○地域・児童が、母校に誇りをもてる学校
 【目指す児童・生徒像】 さ:さわやかにあいさつ く:クラスの友達と仲良く(苦しい時こそ笑顔で) ら:楽な仕事は友達に大変な仕事は自分から(来年、将来の自分をイメージして)
 【目指す教師像】 ○子どもへの愛情に溢れ職務を全うする教師 ○絶えず自己研鑽に励む教師 ○明るく元気で前向きな教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】令和5年度に、校内研究においてICTの活用について取り組んだことで、まだ個人差はあるものの授業で効果的に活用できている場面が増えた。
 【課題】若手教員が自信をもていない。子育て世代が多く、十分な校内OJTができていない。また、児童に関しては、登校渋りや長期にわたる不登校が多く、改善に至っていない。

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 課題と対策 | | 第2回評価 | | 成果と次年度以降の対策 |
|-----------|---|-------|------|--|------|-------|---|-------------|
| | | 努力目標 | 成果目標 | 努力目標 | 成果目標 | 努力目標 | 成果目標 | |
| 授業変革の推進 | 全教員が個の学びに重点を充てた公開授業を年間2回以上実施する。 | 4 | 3.75 | 1学期と2学期、全員が校内研究に合わせ「国語」を中心に公開授業を行った。しかし、公開しても互いに見合う時間を確保するのが難しいため、令和7年度は空き時間の設定など、実施方法を検討したい。 | 4 | 3 | 年次研修や道場部員、校内研や市教研の研究授業も含め、指導案を作成した授業研究を全員が年間1回以上は実施し、教員個々の授業力を向上させることができた。また、自己申告の授業観察も原則公開とし、授業改善を図る機会としたが、参観者が増えなかったため、見る授業を選択させていく。 | |
| | ICT機器やデジタルコンテンツ活用の教員研修や情報共有の機会を毎月設定する。 | 3 | 2.75 | 昨年度は校内研究として取り組んでいたため、全教員が意識してICTの活用を進めることができた。今年度、さらに活用を進めている者がいる一方で、思ったように活用できていない者もあり、個人差が大きい。さらに取り組みを工夫していく必要がある。 | 4 | 4 | 1月の教員アンケートで「ICT機器・デジタルコンテンツ等を授業で活用し、教員間で情報共有を図っていると思う。」が昨年度より1割下がった。児童アンケートでの評価は高いが、保護者アンケートでは評価が低い。実践していることが保護者にも伝わるような手だてを講じていく。 | |
| 子どもの権利の尊 | 1年:特別支援学級・教室の理解授業 2・5年:言語聴覚障害学級理解授業 3・6年:特別支援教室理解授業 4年:特別支援学級理解授業 3・5・6年:特別支援学校理解授業 | 4 | 4 | 特別支援学級や教室、特別支援学校の協力を得ながら実施することができている。発達段階に合わせて、積み重ねができているところが本校の強みである。学校公開等に合わせ、保護者にまで啓発できているのも良い。 | 4 | 4 | 各学年の発達段階に応じて交流授業や理解授業を実施することができた。これらに継続して取り組んでいくとともに、保護者も学校公開等での授業に参加できるようにして、理解・啓発を図っていく。また、隣の第一中学校や小金井特別支援学校等とも連携しながら進めていく。 | |
| | 毎月の校内委員会や毎週の生活指導夕会において、対象となる児童の情報を共有していく。相談体制を整え、ふれあい月間を中心に、繰り返し児童に周知していく。 | 3 | 3.5 | 毎週、情報交換を密に行っている。いくつかの学級では問題行動が起きているが、今年度から、担任の持ち上がりなく、児童も全学年クラス替えを行ったため、比較的落ち着いている状態である。 | 4 | 3 | 対象となる児童の情報を共有することはできたが、不登校・登校渋りを減らすことはできなかったため、毎年度のクラス替え・担任替えて組織体制を強化していく。1月の教員アンケートで「いじめ調査を定期的実施し、丁寧な聞き取りを行い、実態を把握し、対応していると思う。」が9割であったため、継続していく。 | |
| 地域連携の推進 | 全学年で、地域の外部講師を招いた授業を年間1回以上実施する。 | 2 | 3 | 動物教室を体育館で実施したり、地域の農家の方を訪問して芋ほり体験をしたりするなど、いくつかの学年では、体験的な授業を実施することができた。毎年実施が定着できていない学年があるため、できるだけ固定化していきたい。 | 4 | 3 | 学校公開・学校運営協議会・保護者アンケート等を活用するとともに、放課後子ども教室や黄金井倶楽部との連携を通して、地域に開かれた学校として人材活用を図り、教育課程を展開していこうと考えたが十分にはできなかった。学校運営協議会主催で防災教室を実施できたのは大きな成果である。 | |
| | ・定期的な情報は月初めに発信する。 ・週3回以上、可能な限り毎日ブログを更新する。 ・ICTを活用した授業実践、二小ハチドリプロジェクトについて公開する。 | 3 | 3 | 月初めの情報発信や毎週のブログ更新ができていた。6年生の林間学校など大きな行事では閲覧者が増えたが、最近は同じ方だけが見てくださっているようなので、さらに声をかけて学校に関心をもっていただけるようにしていきたい。 | 4 | 4 | 12月の保護者アンケート「学校は、学校だよりやホームページ、スクールメールなどを活用し、タイムリーな情報発信を行っていると思う。」で昨年度よりさらに高い評価を得ることができた。「ハチドリプロジェクト」には6年生は取り組めたが、他の学年は十分に取組めなかったため他校の取組を参考に力を入れていく。 | |
| 特色ある学校づくり | ・体育における二小スタンダードを全学級で実践する。 ・学習カードを活用することで、目当ての設定や振り返りを充実させる。 | 3 | 3 | 一昨年度までの研究の成果を生かして、継続した取り組みができていところもあるが、さらに向上させていこうという意欲までは感じられない。他校の良い実践例や新たな情報も入れて改善を目指したい。 | 4 | 3 | 12月の保護者アンケートで肯定的な回答が64%と、昨年度より下がってしまった。これは、昨年度が12%も上がったことにもよるが、2年前まで取り組んでいた体育の校内研究の成果が薄れてきたものと考えられる。今後は、マンネリ化しないようにカードなども進化させながら継続して取り組んでいく。 | |
| | ・なわとび、持久走週間を設定し、休み時間の運動を促す。 ・二小サーキットを積極的に活用し、児童に多様な運動を経験させる。 | 3 | 3 | 好きな子はどんどん取り組むが、そうでない子との二極化が進んでしまっている。スモールステップで、継続していけるような取り組みとしたい。今年度、6年生は教科担任制で体育の授業を行った。今後、他の学年でも体育専科制を模索していきたい。 | 4 | 3 | 今年度は天候に恵まれ、十分に実施することができた。持久走やなわとび週間を設定したことで、期間が終了した後も取り組み児童が多く見られた。来年度からは、高学年で教科担任制が始まるため、専門的な指導により、さらなる体力の向上を目指していきたい。 | |
| | ・学期1回の読書週間を設定する。 ・定期的な学校図書館を整理する。 ・PTAサークル(さくらんぼの会)による読み聞かせを設定する。 | 4 | 4 | 読書週間を設定し、読書に取り組んでいる。夏の蔵書点検では、全教職員で協力して学校図書館を整理することができた。さくらんぼの会の皆さんのおかげで、朝の読み聞かせを高学年児童も楽しみにしている。 | 4 | 4 | 読み聞かせサークル「さくらんぼの会」の方による読み聞かせや学期ごとの読書イベント、環境整備等に取り組んでおり、12月の保護者アンケートでは、肯定的な回答が昨年度より上がった。しかし、高学年でマンネリ化も見られるため、取組の充実を図るとともに、周知にも力を入れていく。 | |
| | ・芝生維持に係る児童の活動を二小ハチドリプロジェクトに位置付ける。 ・芝生委員会を中心に、地域ボランティアと共に全職員で整備を行う。 | 3 | 3.25 | 児童・教職員・ボランティア、そして何より用務主事のおかげで、芝生の校庭をいい状態で維持し、活用することができている。今後、さらにハチドリプロジェクトとしての取組をどのように行っていくか検討していかななくてはならない。 | 3 | 3 | 今年度は晴れの日が多く、体育の授業や休み時間の外遊びなど、児童の活動を優先させながら芝生の維持にも努めてきた。また、児童が登校している期間は、放課後子ども教室としても14時30分から16時30分まで校庭遊びができていた。今後は「ハチドリプロジェクト」との関連を意識しながら継続していく。 | |